

平成17年度 近畿地区公立中学校
修学旅行実施状況報告書

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

平成17年度 回答状況

(単位:校)

府県名	対象校	回答校	回答率	前年度
大阪府	334	292	87.4%	80.5%
京都府	98	98	100.0%	96.0%
兵庫県	271	265	97.8%	89.5%
滋賀県	97	97	100.0%	100.0%
奈良県	107	93	86.9%	93.5%
和歌山県	137	123	89.8%	91.4%
合計	1,044	968	92.7%	88.8%

隔年実施の学校、新設校のため未実施、記入漏れ、回答枚数の不足等のため、次ペ - ジ以下の合計数が回答校数と一致しない場合があります。

次ペ - ジ以下の比率については原則として、0.5%未満は空欄にしています。

平成17年度修学旅行の実施状況について

1 実施状況について

1 - 1 旅行実施時期(月別・府県別)

(単位:校)

府県 実施月	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
4月	7	2%	7	7%	60	23%	55	58%	10	11%	5	4%	144	15%
5月	165	57%	59	60%	197	74%	5	5%	65	70%	77	63%	568	59%
6月	110	38%	3	3%	7	3%	23	24%	11	12%	6	5%	160	17%
7月	2	1%											2	
8月														
9月							2	2%					2	
10月			2	2%					1	1%	32	26%	35	4%
11月			1	1%							2	2%	3	
12月														
1月			1	1%							1	1%	2	
2月	6	2%	19	19%	1		10	11%	4	4%			40	4%
3月			6	6%					2	2%			8	1%
合計	290	100%	98	100%	265	100%	95	100%	93	100%	123	100%	964	100%

前年度に比べて大きな変動はありません。

1 - 2 旅行実施先(月別・旅行先別)

(単位:校)

実施月 旅行先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数
北海道	2	24											26
東北													
関東・富士・伊豆	39	263	44	1		1	33	2			5	7	395
信越・信州・中部・北陸	14	48	37			1				1	29	1	131
中国・四国		11	5				1	1					18
九州	41	77	30								5		153
沖縄	46	145	43	1			1			1	1		238
海外	2												2
その他			1										1
合計	144	568	160	2		2	35	3		2	40	8	964

信越・信州・中部・北陸方面について昨年度と比較すると、4月は昨年52校から本年14校、5月は38校から48校、6月は3校から37校へと大きく変化しています。

1 - 3 旅行実施先(府県別・旅行先別)

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計		
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	前年度
北海道	10	3%			11	4%			3	3%	2	2%	26	3%	2%
東北															
関東・富士・伊豆	45	16%	49	50%	102	38%	53	56%	39	42%	107	87%	395	41%	42%
信越・信州・中部・北陸	73	25%	33	34%	18	7%	2	2%	5	5%			131	14%	13%
中国・四国	12	4%	2	2%							4	3%	18	2%	2%
九州	51	18%	7	7%	60	23%	23	24%	10	11%	2	2%	153	16%	19%
沖縄	98	34%	7	7%	74	28%	17	18%	36	39%	6	5%	238	25%	22%
海外											2	2%	2		
その他	1												1		
合計	290	100%	98	100%	265	100%	95	100%	93	100%	123	100%	964	100%	100%

沖縄は昨年度207校から238校に、北海道は17校から26校に増加しています。

近修委の調査(回答率89%)によれば、19年度までに(20年度以降は未調査)沖縄は356校に、北海道は42校に増加する見込みです。 海外はシンガポールです。 その他は近畿地区内です。

1 - 4 旅行費用(生徒一人当たりの総額。小遣いは含まず)

(単位:円)

額/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	平均額
最高額	76,000	74,000	75,068	78,000	78,978	85,000	
最低額	28,158	38,371	35,655	49,126	40,000	40,047	
平均額	54,054	59,007	58,431	59,607	62,639	61,058	

班別学習・体験学習の数や内容により個人的にかなりの差が出るため、各学校とも費用の算出は難しい作業となっています。

山間地等のため学校から主要交通機関まで距離がある学校は、平均して費用は高くなっています。

最高額・最低額は2泊3日の修学旅行を対象としましたが、平均額は全回答校の平均です。(1-5表も同じ)

1 - 5 旅行先別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

(単位:円)

旅行先/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県
北海道	62,486		60,554		71,809	80,014
東北						
関東・富士・伊豆	57,888	64,400	61,306	58,399	61,829	59,382
信越・信州・中部・北陸	40,915	50,679	47,718	50,460	46,096	
中国・四国	42,482	55,000				63,294
九州	55,811	61,083	54,354	61,393	62,229	59,874
沖縄	62,175	60,260	59,928	62,353	65,237	72,413
海外						91,909
その他	16,990					

1 - 6 宿泊地(数字は延べ泊数)

(単位:泊数)

地区	宿泊地名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	泊数合計	構成比
北海道	札幌・小樽・ニセコ	9		9		5	4	27	52%
	函館・湯ノ川			1		1		2	4%
	洞爺湖・登別	3		3		1		7	13%
	層雲峡・阿寒湖・網走	2		1				3	6%
	富良野・トマム	1		4				5	10%
	その他	4		4				8	15%
	小計	19		22		7	4	52	3%
東北	東北								
	小計								
関東 富士 伊豆	東京都内	17	82	122	62	43	155	481	60%
	TDL周辺・幕張・千葉	34	6	53	15	22	31	161	20%
	富士五湖周辺	29	3	22	23	9	16	102	13%
	箱根周辺			1			2	3	
	横浜周辺	2	1	5	1	8	10	27	3%
	伊豆周辺	1	2		4			7	1%
	その他	7		3	1	1	9	21	3%
小計	90	94	206	106	83	223	802	41%	
信越 信州 中部 北陸	白馬・大町	43	29	2	3	4		81	29%
	上高地・浅間・美ヶ原	3						3	1%
	白樺湖・蓼科・清里	15	2					17	6%
	乗鞍高原	12						12	4%
	志賀・黒姫・野沢・妙高	4	33	26				63	22%
	奥美濃・荘川・鷲ヶ岳								
	高山・数河・奥飛騨	9						9	3%
	飯田・昼神	23	2	4				29	10%
その他	37	19	4	2	7		69	24%	
小計	146	85	36	5	11		283	14%	
中国 四国	高知県・愛媛県	7						7	19%
	徳島県・香川県								
	広島県(広島・宮島等)	9	2				9	20	54%
	山口県(萩・秋吉台・下関等)	1	1					2	5%
	岡山県(倉敷・鷲羽山等)	4						4	11%
	鳥取県(米子・大山等)								
	島根県(隠岐・松江・出雲等)								
	その他	3					1	4	11%
小計	24	3				10	37	2%	
九州	福岡県(博多・二日市・原鶴等)			1		1		2	1%
	福岡県(北九州等)	15	3	10	7			35	11%
	長崎県(長崎市内)	50	5	56	24	11	2	148	47%
	長崎県(佐世保・ハウステンボス等)	9		17	4		2	32	10%
	長崎県(雲仙・島原等)	4	2	7	1	1		15	5%
	長崎県(壱岐・対馬等)	12		1	5	4		22	7%
	佐賀県(嬉野・武雄等)	2	1	3		2		8	3%
	大分県(九重・別府・住吉浜等)		1		2			3	1%
	熊本県(阿蘇・内牧・杖立等)	2		16	3			21	7%
	熊本県(菊地・山鹿・天草等)	1	1					2	1%
	宮崎県(宮崎・青島等)			1				1	
	鹿児島県(霧島・指宿・屋久島等)	5		5				10	3%
	その他	4	3	3	3	1	1	15	5%
小計	104	16	120	49	20	5	314	16%	
沖縄	那覇市周辺	37	4	43	15	20	6	125	26%
	恩納村・読谷村周辺	114	4	42	10	34	5	209	44%
	名護市周辺	13	2	14	1	4		34	7%
	本部町・今帰仁村周辺	10	2	25	5	10		52	11%
	伊計島・佐敷町	11		11	1	1		24	5%
	その他	14	2	9		4	2	31	7%
小計	199	14	144	32	73	13	475	24%	
その他		1		1			7	9	100%
	小計	1		1			7	9	0%
合計		583	212	529	192	194	262	1,972	100%

各小計の比率は1972泊に対する構成比率です。

2 修学旅行での体験学習について

2-1 体験学習の実施状況

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
実施している	278	95%	81	83%	206	78%	92	95%	77	83%	59	48%	793	82%
実施していない	14	5%	17	17%	59	22%	5	5%	16	17%	64	52%	175	18%
合計	292	100%	98	100%	265	100%	97	100%	93	100%	123	100%	968	100%

体験学習をしている学校は昨年度83%、一昨年度は81%となっています。

2-2 体験学習の学習形態(複数回答可)

(単位:件)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
学年全体	221	25%	66	29%	154	28%	49	15%	72	30%	55	42%	617	26%
学級	131	15%	13	6%	58	11%	44	13%	34	14%	7	5%	287	12%
班別	436	50%	122	53%	254	46%	120	36%	112	46%	65	50%	1,109	47%
男女別	9	1%			6	1%	3	1%	1				19	1%
個人	78	9%	29	13%	80	14%	113	34%	24	10%	3	2%	327	14%
合計	875	100%	230	100%	552	100%	329	100%	243	100%	130	100%	2,359	100%

各校とも複数班が同一内容の体験学習をしている場合は、1として計上しています。

各校とも種類の異なる体験学習は、上記に従い全て計上しています。

2-3 体験学習の所要時間(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
60分以内	14	5%	5	6%	11	6%	2	2%	3	4%	15	28%	50	7%
120分以内	34	13%	19	25%	47	24%	20	23%	22	29%	18	33%	160	21%
180分以内	122	45%	12	16%	68	34%	37	43%	27	36%	14	26%	280	37%
240分以内	49	18%	8	10%	31	16%	13	15%	10	13%	1	2%	112	15%
300分以内	13	5%	8	10%	8	4%	7	8%	2	3%	4	7%	42	6%
360分以内	11	4%	3	4%	9	5%	3	3%	6	8%	1	2%	33	4%
420分以内	5	2%			4	2%			2	3%	1	2%	12	2%
480分以内	8	3%	5	6%	3	2%	2	2%	2	3%			20	3%
481分以上	15	6%	17	22%	17	9%	3	3%	2	3%			54	7%
合計	271	100%	77	100%	198	100%	87	100%	76	100%	54	100%	763	100%

各校の最長時間で集計しました。長時間の体験学習では、スキー実習が多くを占めています。

「民宿+農業体験等」(481分以上)が新しい修旅として多く見られます。

2 - 4 体験学習の内容(複数回答可。資料 を参考にしてください。)

(単位:校)

区分	分類	区分	分類	NO	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	合計	
A	歴史文化体験	A1	歴史文化遺産体験		53	8	43	16	15	11	146	
					31	4	36	6	10	7	94	
		A2	生活歴史文化体験		26	3	26	2	4	4	65	
					65	20	65	31	31	10	222	
B	社会体験	B1	一般社会 職場体験		5	15	30	23	17	22	112	
					9	19	38	22	13	28	129	
					1	3	4	7	1	3	19	
		B2	福祉 ボランティア			1	4	3				8
					2	1	1	1		2	7	
		B3	平和学習		106	13	73	29	25	11	257	
					26	4	12	6	6	8	62	
B4	国際社会体験		1	1	1	2			5			
			7	11	6	4	3	6	37			
B5	進路選択体験			11	4	3	5	3	26			
				5	1	2	2	1	11			
B6	生活文化体験		67	6	30	12	7	1	123			
			3		2	1			6			
			18	2	4	6	3		33			
C	環境保全 共生体験	C1	自然環境体験		31	3	25	10	13	2	84	
					4		2	1	1		8	
					1	1	1				3	
					3		1	3			7	
		C2	生活・社会 環境体験		2	2	1	5	1	3	14	
					1	1		2		1	5	
				1	1	3				5		
				3						3		
C3	地球環境体験		1		1	1			2	5		
				1	2					3		
D	交流体験	D1	交流体験		3	1	1	1	1	2	9	
									1		1	
					5	1	1	2			9	
E	自然 スポ-ツ 体験	E1	陸		20	23	16	2	5		66	
					3	1	3				7	
					5	7	4	2	2	1	21	
					14	5	2	5	2		28	
								1			1	
					14	7	1	7	2		31	
					12		2	6	1	2	23	
					22	4	7	9	3	1	46	
		E2	海・湖・川		82	11	37	23	19	1	173	
					77	10	18	12	7		124	
					44	7	11	25	7	1	95	
					66	3	23	14	21	1	128	
					3			2			5	
					11	2	9	4	3		29	
					4		1	3			8	
E3	空		5		4	1	1		11			
			20	4	5	15	4		48			
			2		1	1			4			
合 計					875	225	560	336	236	134	2,366	

複数班が同一内容の体験学習をしている場合は1としてカウントしています。

各学校の工夫で内容は多岐にわたっています。

前年に比べB6が約4割、E2が約3割増加しています。

修学旅行における体験学習の分類

財団法人 全国修学旅行研究協会

区分	分類	区分	分類	NO	内 容		
A	歴史文化体験	A 1	歴史文化遺産体験		歴史遺産...世界文化遺産、建造物、仏像、庭園、古墳、遺跡 文化遺産・芸能...宗教、民俗、伝統芸能、祭		
		A 2	生活歴史文化体験		伝統文化...町並み保存、歴史街道、民具、生活用品 創作...民芸品、食品、菓子、陶芸、絵付け、染色、漆器		
B	社会体験	B 1	一般社会 職場体験		行政・政治...国会議事堂、裁判所、官庁等訪問、大臣・知事懇談 産業...公的施設、会社、工場、新聞社、出版社、テレビ局等訪問 社会・勤労体験学習...テーブルマナ、商店街等での売り子体験学習		
		B 2	福祉 ボランティア		福祉...福祉施設・健康施設見学 ボランティア...ゴミ清掃、老人・障害者介護体験		
		B 3	平和学習		戦争体験...広島・長崎、原爆体験、沖縄戦跡、東京空襲体験 平和活動...平和NGOとの懇談、核廃絶施設見学、軍事基地		
		B 4	国際社会体験		国際交流...外国人学校交歓 国際理解...大使館訪問、外人向け観光バス試乗、国際関連機関		
		B 5	進路選択体験		学校訪問...大学訪問 企業訪問...志望企業訪問、先輩訪問、勤労体験プラザでの学習		
		B 6	生活文化体験		農業...田植え、稲刈り、収穫、りんごの花粉付け、摘果、ファームステイ 林業...植樹、植林、下草刈、 漁業...地引網、養殖		
C	環境保全 共生体験	C 1	自然環境体験		自然観察 自然保護 世界自然遺産 スペ - スキャンプ		
		C 2	生活・社会 環境体験		エネルギー - ゴミ処理 排水 リサイクル		
		C 3	地球環境体験		地球温暖化現象 海洋汚染		
D	交流体験	D 1	交流体験		学校間交流 姉妹校訪問 都市と田舎の交流 ホ - ムステイ		
E	自然 スポ - ツ 体験	E 1	陸		スキ - 登山 トレッキング マウンテンバイク ネイチャ - ゲ - ム 乗馬 探検 その他		
				E 2	海・湖・川		カヌ - ラフティング フィッシング シュノ - ケリング ダイビング ウオッチング 無人島の生活 ガタリンピック
						E 3	空

施設での学習内容は、安全学習・環境学習等まちまちですが、施設訪問ということでB1 としています。

3 主要交通機関について

3 - 1 集約列車の利用状況

(単位:校)

利用状況	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集約列車利用する	22	7%	14	14%	83	32%					3	3%	62	53%	184	19%
集約列車を利用しない	277	93%	83	86%	179	68%	92	100%	92	100%	89	97%	56	47%	776	81%
合計	299	100%	97	100%	262	100%	92	100%	92	100%	92	100%	118	100%	960	100%

和歌山県は和歌山県中学校長会が主体となる連合輸送です。

3 - 2 集約列車を利用しない場合の交通機関

(単位:校)

交通機関	府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
		校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
往路	列車	64	24%	40	48%	53	30%	75	82%	35	39%	27	49%	294	39%
	航空機	124	46%	10	12%	104	60%	16	17%	49	55%	26	46%	329	43%
	船舶	1												1	
	バス	79	30%	33	40%	17	10%	1	1%	5	6%	3	5%	138	18%
	小計	268	100%	83	100%	174	100%	92	100%	89	100%	56	100%	762	100%
復路	列車	55	21%	19	23%	53	30%	75	82%	32	36%	4	7%	238	31%
	航空機	126	47%	31	37%	100	57%	16	17%	50	56%	43	77%	366	48%
	船舶	4	1%			3	2%			1	1%			8	1%
	バス	83	31%	33	40%	19	11%	1	1%	6	7%	9	16%	151	20%
	小計	268	100%	83	100%	175	100%	92	100%	89	100%	56	100%	763	100%

近修委(集約輸送)離れが進んでいます。理由は航空機利用の増加や学校の立地条件等が考えられますが、

集約以外の往復新幹線利用については、経費節減の観点から検討の余地があると考えます。

バス利用校の旅行先は、信越・信州・中部・北陸方面が多くを占めています。

3泊の学校では、3泊目は帰路のバス中泊が多くなっています。

今後の修学旅行に対する考えをお聞かせ下さい。

1 今後(数年先)の修学旅行の訪問地について

1-1 旅行先の変更について(数年以内)

(単位:校)

府県 変更状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
旅行先を変えない	150	52%	67	71%	142	57%	57	62%	53	57%	89	75%	558	60%
旅行先を変える	56	19%	6	6%	23	9%	15	16%	12	13%	5	4%	117	12%
検討中	83	29%	22	23%	86	34%	20	22%	28	30%	25	21%	264	28%
合計	289	100%	95	100%	251	100%	92	100%	93	100%	119	100%	939	100%

旅行先変更・検討中を合わせると40%となっています。(昨年度42%、一昨年度38%)

体験学習や班別学習の重視・総合的な学習の時間との関連等新しい修学旅行を模索するという観点から変更を検討していることがご意見から伺えます。

1-2 上記で「変える」と答えた学校の旅行先

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
北海道	4	10%	2	33%	5	24%	1	7%	1	16%			13	15%
東北														
関東・富士・伊豆	4	11%	1	17%			1	7%	1	17%			7	8%
信越・信州・中部・北陸	10	26%			3	14%	1	7%			1	33%	15	17%
近畿														
中国	2	5%	1	17%									3	3%
四国														
九州	4	11%			5	24%	4	29%	1	17%	1	33%	15	17%
沖縄	14	37%	2	33%	8	38%	7	50%	3	50%	1	33%	35	40%
その他														
検討中														
合計	38	100%	6	100%	21	100%	14	100%	6	100%	3	100%	88	100%

充実した修学旅行をさせたい(総合的な学習の時間と関連させてという学校もある)との思いから、検討していることが伺えます。検討の主な理由は下記の通りです。

沖縄県の場合は、平和学習・マリンスポーツ・伝統工芸体験等を目的としている。

九州方面は長崎県が多く、平和学習をさせたいと考えている。

環境学習・ボランティア・自然体験・国際理解等を重視したい。

企業訪問・職場訪問・大学訪問等をして、進路選択につながる旅行を考えたい。

地元で体験できないものを体験させたい。

旅行先での交流を重視したい。

北海道方面は、大自然の中で農業(酪農含む)体験を希望している。

インタ - ネットの活用について

1 修学旅行にインタ - ネットを活用していますか。

1 - 1 活用の状況

(単位:校)

府県 活用状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
活用している	242	83%	87	89%	229	87%	91	90%	86	92%	106	86%	841	87%
活用していない	51	17%	11	11%	35	13%	10	10%	7	8%	17	14%	131	13%
合計	293	100%	98	100%	264	100%	101	100%	93	100%	123	100%	972	100%

活用している学校は増加しています。(16年度87%、15年度84%、14年度76%)

1 - 2 活用の内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 活用内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
計画・立案の情報収集に	154	38%	68	43%	181	45%	79	48%	70	47%	88	47%	640	43%
生徒の事前学習に	205	50%	74	47%	187	46%	70	42%	63	42%	91	49%	690	47%
学校家庭旅行先との連絡に	17	4%	7	4%	20	5%	10	6%	11	7%	6	3%	71	5%
まとめとしてHP等を作成	32	8%	9	6%	18	4%	5	3%	6	4%	1	1%	71	5%
その他			1	1%	1		1	1%			1	1%	4	
合計	408	100%	159	100%	407	100%	165	100%	150	100%	187	100%	1,476	100%

活用内容と傾向はここ数年変わっていません。

修学旅行のねらいについて

1 貴校ではどのような「ねらい」を重視されましたか。

ねらい(複数回答可)

(単位:校)

ねらい	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集団宿泊訓練	162	15%	50	13%	112	11%	35	9%	43	13%	49	10%	451	12%		
班行動による協力の心の育成	215	20%	78	20%	210	21%	68	18%	72	21%	91	18%	734	20%		
公衆道徳の習得	98	9%	53	14%	117	12%	42	11%	29	8%	64	13%	403	11%		
教科学習の発展	22	2%	18	5%	27	2%	14	4%	9	3%	25	5%	115	3%		
総合的な学習の内容の深化	187	17%	51	13%	142	14%	71	18%	56	16%	65	13%	572	15%		
見聞を広め、知識の習得	132	12%	55	14%	179	18%	67	17%	55	16%	106	22%	594	16%		
生徒間の人間関係づくり	227	21%	67	17%	172	17%	71	18%	63	18%	78	16%	678	18%		
自己課題の設定と追求	26	2%	14	3%	27	3%	11	3%	11	3%	12	2%	101	3%		
その他	平和学習	11	1%			8	1%	3	1%	2	1%	1		25	1%	
	その他	6	1%	3	1%	7	1%	2	1%	4	1%	2	1%	24	1%	
合計	1,086	100%	389	100%	1,001	100%	384	100%	344	100%	493	100%	3,697	100%		

ねらいは昨年度と同傾向にあります。

その他では「平和学習」が25(昨年度17)で今年も最も多くなっていますので、その他を「平和学習」と「その他」

に分けています。

修学旅行と教科や他の教育活動との関わりについて

1 修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わりを持たせましたか。

関わり状況

(単位:校)

関わり状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
はい	265	91%	82	85%	237	90%	97	100%	87	95%	114	86%	882	91%
いいえ	25	9%	15	15%	25	10%			5	5%	18	14%	88	9%
合計	290	100%	97	100%	262	100%	97	100%	92	100%	132	100%	970	100%

関わりがあったとした学校は、昨年(88%)、一昨年(84%)と増加傾向にあります。

2 関わりを持たせたのは次のどれですか。

教科内容(複数回答可)

(単位:校)

教科内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国語	6	1%	3	2%	9	2%	5	3%	6	4%	3	2%	32	2%
社会	84	19%	31	22%	72	18%	34	23%	24	17%	44	27%	289	20%
数学	1												1	
理科	17	4%	9	7%	5	1%	6	4%	2	1%	7	4%	46	3%
英語	3	1%			3	1%					2	1%	8	1%
保健体育	9	2%	8	6%	1				3	2%			21	1%
音楽	3	1%			3	1%	1	1%	1	1%			8	1%
美術	5	1%			4	1%	2	1%	2	1%	1	1%	14	1%
技術家庭	3	1%			3	1%	2	1%			1	1%	9	1%
道徳	54	12%	17	12%	79	20%	7	5%	22	16%	18	11%	197	14%
総合的な学習の時間	248	56%	69	50%	221	55%	92	62%	77	56%	85	52%	792	55%
特別活動					2				1	1%			3	
その他	8	2%	1	1%							1	1%	10	1%
合計	441	100%	138	100%	402	100%	149	100%	138	100%	162	100%	1,430	100%

3 「総合的な学習の時間」と関わらせた学習内容は次のどれですか。

学習内容(複数回答可)

(単位:校)

学習内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国際理解学習	37	6%	21	12%	35	6%	20	9%	9	5%	22	11%	144	7%
情報学習	33	6%	22	12%	57	10%	19	8%	16	9%	26	13%	173	9%
環境学習	79	13%	23	13%	43	8%	33	14%	8	4%	18	9%	204	11%
福祉・健康学習	3	1%	2	1%	10	2%	9	4%	1	1%	3	1%	28	1%
奉仕・ボランティア	5	1%	5	3%	4	1%	3	1%			2	1%	19	1%
農村漁村の学習	31	5%			5	1%	7	3%	4	2%	1		48	2%
地域文化の学習	109	19%	34	19%	110	20%	31	13%	37	21%	41	20%	362	19%
平和学習	152	26%	17	10%	127	23%	46	20%	48	27%	31	15%	421	22%
地域の産業学習	50	8%	25	14%	44	8%	21	9%	20	11%	15	7%	175	9%
日本の歴史・文化の学習	77	13%	20	11%	101	18%	40	17%	29	16%	37	18%	304	16%
その他	13	2%	9	5%	12	2%	2	1%	8	4%	7	3%	51	3%
合計	589	100%	178	100%	548	100%	231	100%	180	100%	203	100%	1,929	100%

その他では「進路について考える」が10と最も多くなっています。他には「防災」が4となっています。

4 修学旅行と「総合的な学習の時間」の時数の関わりについてお答え下さい。

4 - 1 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしましたか。 (単位:校)

カウント状況	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
カウントした	261	94%	73	83%	239	96%	94	97%	75	85%	187	92%	929	92%		
カウントしなかった	17	6%	15	17%	11	4%	3	3%	13	15%	17	8%	76	8%		
合計	278	100%	88	100%	250	100%	97	100%	88	100%	204	100%	1,005	100%		

4 - 2 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしたのは次のどの場面ですか。 (単位:校)

カウント場面	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
事前学習の時間	50	16%	10	11%	29	11%	13	10%	10	13%	16	13%	128	13%		
旅行中の学習	62	20%	19	21%	15	6%	39	31%	8	10%	2	2%	145	15%		
事後学習の時間	3	1%	3	3%	4	2%					34	28%	44	4%		
事前・事後学習の時間	142	45%	41	46%	186	73%	57	45%	36	47%	39	32%	501	51%		
事前旅行中事後全ての学習の時間	58	18%	16	18%	22	9%	18	14%	23	30%	30	25%	167	17%		
合計	315	100%	89	100%	256	100%	127	100%	77	100%	121	100%	985	100%		

(一部複数回答あり)

「事前・旅行中・事故全ての学習の時間」の「全て」を「一部」にして回答している学校、また「総合的な学習にふさわしいと認めた時間のみ」と注釈を付け回答している学校が多くありました。他の項目でも同趣旨で回答した学校が多いと推測されます。

「事前...」「事後...」の両方に を付けている場合は、「事前・事後学習...」に変えて計上しています。従って、「事後学習の時間の」項目は少なくなっています。

体験学習に関するご意見

(いくつかのご意見をまとめた所もあります。一部割愛させて頂いたご意見もあります。)

スキー体験学習を続けるのかということを検討する時期に来ている。風邪等で参加できない生徒もいる。

(信州方面)

沖縄での自然スポーツ体験は、自然を満喫でき大変よかった。天候によっては実施できないものがあり要検討。

また、中学生にとって手頃な価格で、長時間活動ができる体験を提供してほしい。体験費用が高すぎる。

現地の文化や自然に触れたり、また現地の人たちとの交流は生徒にとって有意義であった。マリン体験を今後考えたい。ただ、現地との連絡方法については研究を要する。(沖縄)

自然スポーツ体験は充実感が得られ、生徒にとって思い出深いものとなった。ただし、「そば打ち」体験はアレルギー対策が必要となる。今後検討したい。(信州方面)

自主性や協調性の育成と共に、満足感や充実感を味わうことができた。(九州方面)

悪天候のためスキー実習が中止となったが、代替の体験があり有意義であった。(信州方面)

現地の人たちとの触れ合いを通じて学ぶことが多くあり、単なる見学では得られない大きな成果がある。

(信州方面)

施設訪問・見学が中心であるので、今後は体験的な内容を入れていきたい。(関東方面)

2年生の2学期後半から調べ学習を実施し、目的地までの経路・料金・予約等を生徒にさせている。既製のコースではないので、興味・関心を持って調べ、体験しているので、よい取り組みをしていると考えている。(関東方面)

国会議事堂を訪問し、国会議員の話が聞けたり、大企業の本社を訪れ製品の企画等の話が聞けたことは大きな成果と言える。今後の課題として環境や交流など幅広いテーマで体験学習が進められればと考えます。(関東方面)

物作り体験は生徒が積極的に参加できたが、講演等がはいると集中できないことがある。(長崎方面)

東京大学訪問班は、学生へのアンケートを実施し、直接交流することができた。

3大学を訪問したが、視野を広げるのに役立った。ただ、大学からはもう少し深い説明がほしい。(関東方面)

見学や説明だけの訪問先もあった。学校でできない体験をさせたい。(関東方面)

外国からの研修生とよい交流ができた。英語が通じて喜んでいて、英語学習が意欲的になった。(関東方面)

沖縄では戦争についてしっかり学習することができた。また現地の人たちと触れ合うこともできた。

班別行動をしているので、「事故に遭わないか」、の心配は常にある。(関東方面)

個人の興味・関心に合わせた学習が可能であり、前向きに取り組めた。しかし、費用に比して内容が伴わないものが多い。(関東方面)

自然体験を重視するため分宿をした。教師間の連絡が大変難しい。(九州方面)

体験学習は大変よいが、課題は訪問先に受け入れの十分なノウハウあるかどうか。充分でない場合大きなトラブルの元になる可能性がある。(関東方面)

現地での受け入れ態勢が整っていて、各家庭と心温まる交流が図れ、生徒は感動している。(九州方面)

グリーンツーリズムによる農業体験が生徒に深い感動を与え、卒業後の進路までよい影響を与えた。(九州方面)

今回の体験は、4地域に分散したホームステイ先とリンクさせたため、制約が多かった。体験そのものは生徒たちに学習意欲が高かったこともあり、有意義で中身の濃いものとなった。(九州方面)

旅行先の中学校等との交流を検討中。(関東方面)

平和学習における体験学習で、戦争の悲惨さ・平和の尊さに対する認識を深めることができたが、今後どう生かしていくのかと言う課題が残る。(沖縄)

小グループで課題を設定し、その課題解決のために努力した後現地訪問し、自らの目で確かめ、体験し、人との触れ合いを通して学ぶことには大きな意義がある。事前学習の充実と事後の取り組みの工夫により、より大きな学習効果が得られる。(関東方面)

彦岐の自然のすばらしさに生徒は感動していた。

沖縄での平和学習については、2年生から総合的な学習や教科学習・特別活動も含めて継続的・計画的に取り組んできた。現地での体験は、これらの学習のまとめと位置づけることができ有意義であった。

修学旅行生を専門に受け入れ、様々な体験を準備している民宿をコーディネートしている松浦市の行政はすばらしいと思う。(九州方面)

長崎で被爆者ボランティアの施設案内を通して、当時の原爆や戦争の悲惨さを聞くことができたことは、生徒にとってよい学習となった。

漁村の生活体験・化石発掘体験・水俣病について、語り部から聞いたり、施設見学をしたり、知覧特攻記念館で語り部から話を聞いたり中身の濃い学習ができた。(九州方面)

本年はクラス別（８組）にそれぞれ異なった所に行くので、時間的なことが課題となります。（関東方面）
戦争体験者から生の声を聞いたり、現存する資料を見たりし、本や映像とは違うものが生徒の心に届いた。ユニセフでは世界の子供たちの現状を聞き、広く世界に目を向けることができた。この取り組みを続けたい。（関東方面）
河口湖周辺の大自然に触れることができ、環境学習もできた。今後は平和学習にも取り組みたい。（関東方面）
大別して、学年と班別に分かれて行動しているが、班別行動は生徒把握が流動的になり、危機管理の面で検討すべき課題が多い。（関東方面）

「総合的な学習」の集大成として、また、各教科の学習の発展的学習として、今回の体験学習（各企業・公共施設等でのヒアリング、作業体験、歴史文化体験、見学等）は、有意義であった。今後幅を広げたい。（関東方面）
学校間交流は共に小規模の特性を生かした取り組みができて大変有意義であった。（沖縄）

酪農体験で牛の搾乳や子牛の哺乳体験をしたが、時間が短く意図するような体験にはならなかった。（北海道）
南海大地震に備え、地域防災のリーダー育成には欠かせない体験をすることができた。（関東方面）

田舎の学校であるので、都会の社会・職場体験は、生徒にとって貴重なものであった。（関東方面）
海に面しない県であるので、海での体験は貴重となった。また、琉球文化・農業体験・平和学習と学ぶことが多く生徒には感動の連続であった。

国会議事堂における委員会・本会議体験プログラムは大変よかった。

どの方面にいても生徒がする体験は有意義である。（沖縄）

「離島５島の交流」という貴重な体験ができた。（沖縄）

普段はできない漁業体験・ステイ先での漁村の方々との交流はよかった。（九州方面）

…。全生徒の要望に応えるだけの選択肢が設定できないという課題がある。（信州方面）

…。教育効果の高い体験学習作りに工夫する時期に来ていると思う。（九州方面）

生徒が東京で何をしたいのかを考えさせ、企画させ、立案させた。課題を設定し、悩み、達成した後の達成感が生徒の成長につながると思う。（生徒数１８５名、２５班で活動）

選択制にすることにより、生徒は意欲的に取り組むが、経費が高くなる。コースを増やすことにより管理の目が届きにくくなり、安全面の対応に課題を感じる。（九州方面）

沖縄での体験学習は費用が高くつく。年々高くなっているように思う。また、壕を見学する団体が多く、時間をかけて説明をきくことができない。

２か月かけて事前学習をした。その中で自主性が育ち、また仲間を思いやる心も育ったように思う。今後はテーマをより明確にして学習効果が上がるようにしたい。（関東方面）

都内班別行動をしているが、受け入れ先を探すのに苦労している。かなり情報をえられるようになりつつあるが、場所や料金も含め、情報を詳しく掲載したものが必要となっている。

通り過ぎる修学旅行ではなく、体験学習はその土地に生きる人たちとの交流・触れ合いができよい。（九州方面）

…。体験先の決定は業者任せにはせず、教員が直接依頼することを原点とすべき。課題は費用。経費の都合で方面を変更せざるを得なくなっている。（沖縄）

初めての体験で講評であった。費用が高いのが難点。（信州方面）

各家庭での手伝いが殆どない生徒には農業体験等は貴重な体験である。農家の人たちとの交流もよい。（信州方面）

…。各体験とも体験の料金が高額である。学校教育の視点で団体料金として安くすべきである。（四国方面）

今年度初めて実施したホームステイは、暖かい触れ合い、様々な体験をさせてもらった。また、戦争聞き取りは貴重な体験として継続したい。（沖縄）

農家でのホームステイ形式の農業体験は色々な人の生き方に触れることができた。課題は農家によって活動内容の違いが大きいこと。（信州方面）

本やインターネット等で調べることはできても、本物との出会いにはかなわないと痛感した。ガイドの自然を愛する気持ちが伝わり感銘した。課題は費用面である。（北海道）

マリンスポーツは近畿ではできないものが多いとあり関心があるが、体調不良で参加できない生徒がいることを考えると、難しい課題が残る。（沖縄）

北海道の自然のすばらしさ、厳しさを体験できた。アイヌ民族の生活を知ること、自然の中でどのように生きるかを考えさせられることになった。

修学旅行に関するご意見等

(内容が類似したご意見は、いくつかをまとめています。)

事前・事後学習をしっかりとっておかないと、観光旅行になってしまう。できることならホテル滞在ではなく、民宿等がよい。体験学習については地域住民との交流、地元学校での学習、ディスカッションの形は内容も深まる。沖縄への修学旅行を5年間実施してきたが、金額面等総合的に考え変更することになっている。

携帯電話が様々な面で活動に影響しています。モラルの面で指導が大変な時代になっています。

生徒全員が実行委員会の役割(8役)を持ち、学級の枠を越えて活動した。

費用(沖縄)の高騰が問題であるが、修学旅行先としては最適であると考え。生徒の心に深く切り込める内容を教材とすることができる。(平和学習)

明治維新で活躍した人たちの足跡を訪ねることができた。日頃体験できないことを数多く体験できたが、交通手段としてバスを利用したところ、時間を多く要し、また経費の面でも再考する余地は充分にあると考える。

修学旅行の危機管理について。過去どのような事故・トラブルがあったのか、また、どう対応したのか。事例集を作成して頂ければと考える。

被爆体験の直接の聞き取り学習は大変勉強になった。ファームステイでは、人との出会い・触れ合いの暖かさに深く感動した生徒が多かった。

本校は、長年に亘り平和教育の充実のため長崎への修学旅行に取り組んできた。その定着と同時に多様化する今日的な課題への対応等に鑑みて、新しい内容が必要であると考えている。

大阪空港の発着便の見直しで、大阪～沖縄の便数や乗客数の制約が心配である。

多様な体験や活動を主目的としており、現地との綿密な打ち合わせ・日程調整がポイントであるため、今後も学校独自の交通手段をとる予定である。(往路：船)

修学旅行中は「総合」の時間とはカウントしなかったが、「総合」の時間に沖縄学習としてグループ学習を行った。日程等でこちらの希望に配慮頂き感謝しています(近修委に)。お陰で、官公庁・テレビ局・博物館等選択範囲が広がりました。

単なる観光旅行ではなく、生徒自身のものの見方や考え方を変える場となるような修学旅行を計画・立案できるように年毎にコースや体験内容を検討する必要がある。学年単位ではなく、学校として。

都内班別活動をした。自分たちで考え、判断して行動することができた。ただ、行動範囲が広いので事故の際の対応が困難である。また、生徒の希望が人気スポットに集中しやすいのも課題。

社会体験学習を取り入れたが、各事業所では親切に対応していただいた。ただ、生徒が希望した事業所に申込みをすると断られる所も多くあった。受け入れ事業所の拡大を望みます。

事前・旅行中・事後で平和学習が充分できた。総合的な学習が充実したものとなった。今後も長崎への修学旅行を続けたい。また、事後活動として、修学旅行新聞を発刊している。

普通の生活の延長線上にあると考えて実施する面と、体験できないことを実施する面とをバランスよく取り入れられるように考えていきたい。制約が多いことをどうクリアしていくかが課題と思われる。

旅行先の施設の内容を事前に充分研究しておくべきであった。

修学旅行は個人のツアーに比して費用が高いと感じる。

往復の交通機関が指定された新幹線であるので、行き先や日程が毎年殆ど変わらない。

限られた時間で事前学習しかできなかったが(時間確保に工夫した)、体験学習や平和学習に大変役立った。

安全面や学習面での指導を徹底していくためには時間的な余裕があればよいが。

修学旅行の意義を検討し、現在の形態でよいのか考えていきたい。

授業時数の観点からはカウントしていない。できるだけ授業時間外の班別学習になるよう指導している。しかし、実際には修学旅行を行事としてカウントするだけでは、授業時数の確保は困難である。

社会情勢を反映して、経済的な理由で修学旅行に参加しにくい家庭もある。修学旅行を「実施する。しない。」を含めて考えていく必要がある。

総合的な学習の時間を絡めた修学旅行はしないようにしたい。

前年度まではスキー実習をしてきたが、総合的な学習の時間と関連づけたいために長崎方面にした。修学旅行中の体験学習を「総合的な学習の時間」として実施したかったが、当地方ではそのような扱いをしている学校はなく、「事前・事後学習」だけを「総合」として扱った。

航空機を利用した修学旅行が増加する中、本校は従来よりスキー実習を実施している。自然に親しむ、また集団行動に重きを置いたものとして続けたい。

旅行先での活動や見学には時間的な限度がある。そのため、事前学習や総合的な学習で生徒の意識を高め、学校が目的とする内容を補うための工夫が必要である。

経済的な理由で受けている補助金が減額される傾向にある。今後経費面を含みどうするか、大きな課題である。「総合学習」の時間があることで可能となった面が多くある。教師主導の計画・立案から生徒が主体のものに変わった。教師のサポートも大変であるが、生徒の充実感はい前の修学旅行とは比較にならないほど大きい。東京方面への修学旅行の意義を検討した結果、沖縄の方が気候・風土の学習、歴史・平和学習等において生徒が主体的に取り組める行事になるのではないかと考え、18年度より変更する予定である。

少人数での修学旅行のあり方を検討中です。(生徒数12名)

本校では入札の関係で毎年旅行業者が変わるので、コース・宿泊地が変わり、学年の課題が生かされない。これまでのように班別自由行動を多く取り入れることを通して、生徒に自主・自律の意識、責任感、連帯感等の高まり等を図りたかったが、危機管理の問題もあり、今回は安全な場所以外はある程度教師引率による活動が多くなった。職業体験を重視した学習活動を今回の学習テーマの一つにした。危機管理を踏まえつつ今後修学旅行での学習活動の目的・内容等を検討する必要がある。

最近の社会情勢の影響で、いかに安全を確保するか。また、経済性も考えていかなければならない。そのような課題を踏まえて、今後の修学旅行のあり方を検討していく必要があると考える。

旅行先を関東から九州へと変更した初年度であったが、コース選定の難しさを痛感した。「一泊目の長崎で平和学習、2泊目の松浦でホームステイと自然体験」の計画は、一見修旅の目玉を満載したすばらしい内容と思われるが、移動が多すぎて極めて厳しい日程であった。生徒が何事も前向きに活動できる集団で全てがうまくいったが、あくまで結果論であって、今後は欲張りすぎず、時には内容を取捨選択する勇気を持つことも必要であると考えている。平和学習を中心とした取り組みを修学旅行で発展させるため、現在旅行先を検討中。

2泊3日の沖縄修学旅行では、日程が固定化し、どの学校も同じコースをたどるといったパターンになっている。現地の協力も必要であるが、学校のニーズに合った様々なコースを開拓する必要がある。

沖縄への修旅で、航空機を利用する学校数が増えているため、出発日の決定まで期間が長く不安である。適切な時間に出発できればよいが、そうでなければ2泊3日が生かされないことになる。どの学校も抱えている悩みだと思う。

旅行先が遠方になりつつあるが、飛行機を利用しての修旅が必要か。本県では専用列車の利用は殆どないのでは。修学旅行が観光ルートに乗ったときは、家族で行っていることが多く感動も薄い。学校が企画しないと体験できない所を選ぶことが大切。広島・長崎の原爆資料館等を見ないまま成長する人も増えている。平和の尊さを考えさせるため小・中・高の間に一度は訪問させたい。

旅行先をすぐに変更する予定はないが、今後の参考に他校の実践を勉強したい。

ディズニーランドへ行くことには、賛否両論あるがはずすことは難しい状況である。

大学見学を通して進路について学習することは大変よかった。また、大学教授による講義も印象的であった。世界各地から大学に留学している学生との交流は国際理解の面で極めてよかった。

近修委の集約輸送はJR運賃が保護者負担の軽減に大変有益である。更に、利用する列車の月日・往復の列車時刻についても学校の希望がかなえることができれば、集約を利用するメリットが大きい。

歴史ある修学旅行の取り組みの伝統を引き継ぎながら、現代的意味を持たせ、生徒の将来につながるものになればと考え企画・実施している。

旅行会社作成の計画書が大変杜撰で混乱を来したが、添乗員の献身的な努力により有意義な旅行となった。

毎年修旅の実施にあたっては、生徒の健康面を考慮して計画するが、学校所在地が都市部ではないのでできるだけ

多くの体験をさせたいとの思いからハードスケジュールになってしまう。今後時間をかけて研究したい。

修学旅行には不易な所がある。行き先は首都(国会等)でなくてはいけないと思う。

本校では、地域の特産物である梅を旅行先でPRする活動をしている。日本一の梅の産地にある中学校として、この活動を通して地域への貢献や梅産業の理解に努めている。

本校では、トルコ共和国との交流の中で、総合的な学習の時間を活用してトルコ大使館訪問をしている。

ご協力ありがとうございました。

平成18年2月

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

平成 18年 2月

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会